

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)	【上位目標】 グワ郡の活動地域において、自らの判断で避難行動をとることができるようになり災害時の被害が軽減され、また、日常において保健衛生を意識した生活行動をとるようになり、罹病が低減される。 【プロジェクト目標】 グワ郡の活動地域において、生徒および住民の防災意識と保健衛生意識が高まる
	【今期事業達成目標】 LCAシステムを設置した15校区の生徒および住民の防災意識と保健衛生意識が他の地域に比べ高まっている。 【達成度】 ・コロナ禍とクーデターによる政変の影響で期間を延長せざるを得なかったが、コロナ禍で第1年次から繰り越した活動も含め予定した活動は全て行うことができ、期待した成果は得られたと考える。 ・これらの学校・村落ではサイクロンなどの襲来時に防災情報を伝えることができるなど住民の防災能力を向上させることができた。設置した学校（第1年次分の15校、第2年次分の15校）の位置を別紙 図1に示す。 ・保健衛生意識向上の活動では、設置した学校の校区の住民の健康状況を把握するためベースライン調査を実施した。この調査により、生徒517人（15校の全生徒の約1/3）、1270世帯（15村落の全世帯数の約1/3）のデータが得られた。調査結果は健康状況報告書としてまとめられ、これをもとに保健衛生授業や保健衛生研修会の教材および研修資料を作成するとともに、LCAシステムの放送で利用される保健衛生意識向上のためのメッセージ集を作成した。 ・LCAシステムを利用し、保健衛生授業、保健衛生研修会、健康メッセージ放送などを通じて住民の保健衛生意識の向上を図った。
(2) 事業内容	第2年次は、新型コロナ禍に加え軍部のクーデターによる行動の制約があったが、以下のように予定した活動を全て行うことができた。 【活動1】LCAシステムの導入 [活動1-1] LCAシステムの設置 グワ郡役場および教育委員会と協議し15校（第2年次分）を選定し、現地調査をもとに基本設計を行った（2021年12月）。LCAシステムは、保守・運用の自立化意識の醸成のため住民、教師の協力を得て設置し、LCAシステム委員会を設置した（2022年2月～3月）。設置作業の様子と設置されたシステム外観を別紙 写真1と写真2に示す。 コロナ禍のため設置できなかった第1年次分の11校（4校は第1年次に設置済み）も第2年次事業のなかで予定通り設置した（2022年6月～7月）。 [活動1-2] LCAシステム説明会 LCAシステムを設置した26校（第1年次分の残り11校、第2年次分15校）説明会を開催し、取り扱い方法や利用方法を先生、住民に説明した（別紙 写真3）。 [活動1-3] LCAシステムワークショップ 第1年次はワークショップを実施できなかったため、第1年次と第2年次の設置校の教師や住民を対象に行った（2022年8月9日）。ワークショップは活動3の教師向け防災研修と合わせて行った。もともと交通が不便であることに加え天候が不順であったことの影響を受けて会場に来ることができなかった1校を除き、29校から80人が参加

	した。研修では当団体からは使用上や保守上の注意事項を伝え、参加者からは活用方法などが紹介された（別紙 写真４）。 研修会は事業地のグワ町で開催され、現地スタッフが準備と進行を行い、本部スタッフは日本からオンラインで参加した。 〔活動 1-4〕 モニタリング 第 1 年次に L C A システムを設置した 1 5 校を訪問し、機器の状況や利用状況についてモニタリングを行い、修理とアドバイスをを行った（2022 年 6 月）。 また、プロジェクトの最後には本事業の持続発展性を確かなものとするため、システムの点検を行った（2022 年 10 月）。 【活動 2】 ハザードマップの作成と設置 L C A システム設置予定の学校付近の現地調査を行い（2021 年 12 月）、ハザードマップに必要な情報を収集した。それに基づきハザードマップの図面を作成し、予定していた 1 5 校に設置した（2022 年 6 月～7 月）。ハザードマップ作成のための現地調査と設置の様子を別紙 写真 5 と写真 6 に示す。 【活動 3】 教師向け防災研修 第 1 年次と第 2 年次の設置校の 3 0 校の教師などを対象に研修を行った（2022 年 8 月 9 日）。研修は活動 1-3 の L C A システムワークショップと合わせて行った。研修では、防災の知識を深めるとともに、防災対策を自分事とするためにグループディスカッションを通じて自分たちが住む地域の災害リスクについて話し合った。 研修の効果は、研修前後に行った理解度テストで正解率が 7 0 % から 8 5 % に上がったことから確認できた。 【活動 4】 保健衛生意識の向上 〔活動 4-1〕 キックオフ会議 グワ郡役場を訪問し、郡長、保健衛生部長、教育部長にプロジェクトの活動内容を説明し、協力を要請した。（2021 年 12 月 13 日）。コロナ感染防止の観点から 1 5 校の先生、住民が一同に会するキックオフ会議は行わなかった。 〔活動 4-2〕 健康状況のベースライン調査および健康状況報告書作成 L C A システムが設置される地域の生徒および住民の健康状況把握のためベースライン調査を実施した（2021 年 12 月～2022 年 2 月）。調査数は、生徒 517 人（15 校の全生徒の約 1/3）、1270 世帯（15 村落の全世帯数の約 1/3）である。 調査の結果、グワ郡の生徒の B M I （ボディマス指数）で 18.5 以下の生徒の割合が 75.6%とミャンマー平均の 18%より 4 倍以上の高いことがわかり、生徒や父兄への栄養教育が必要であることがわかった。調査結果は健康状況報告書としてまとめられた。 ベースライン調査の様子と健康状況報告書の表紙と内容の一部を別紙 写真 7 ～写真 9 に示す。 〔活動 4-3〕 保健衛生授業 L C A システムを利用して保健衛生授業を行った。授業では、感染症がどのようにして感染するか、どのように予防するか等を生徒に教えた。また、手洗い励行など保健衛生上日常行うべきことやその重要性をビデオなどを使って分かりやすく教えた（別紙 写真 1 0）。 〔活動 4-4〕 保健衛生研修会 各学校には、持続的な活動ができるように教師と住民からなる保健衛生ワーキンググループを（SWG, School-based Health Literacy Working Group）を設置した。コロナ感染防止のため保健衛生研修会は住民の参加は最小限とし、主に SWG メンバーに対し
--	--

	て行った。研修会の様子を別紙 写真 11 に示す。 研修は、ベースライン調査結果をもとに村の実態に合わせて行った。また、活動状況の確認、活動方法の指導や下記 4-5 項のメッセージ集の解説などを行った。 〔活動 4-5〕メッセージ集の作成と生徒・住民への放送 健康状況のベースライン調査および健康状況報告書をもとに事業地の保健衛生状況を反映したメッセージ集（別紙 写真 12）を作成した。メッセージ集のメッセージは、LCA システムを使って、生徒および住民に向けて放送され保健衛生意識の向上を図った。特に、コロナ禍にあったためコロナ感染防止の呼びかけに利用された。 〔活動 4-6〕保健衛生関係の状況調査 第 1 年次に保健衛生意識の向上活動を行った学校・村落を訪問し、SWG の活動状況を調査した（2022 年 6 月）。活動内容に濃淡はあるものの活動は継続されていることを確認した。活動が活発に行われていない SWG には定期的に会合を開くことを勧めるなど、活動の活性化のアドバイスを行った。 〔活動 4-7〕活動報告会 活動を総括するための報告会をグワ町で開催した（2022 年 8 月 19 日）。報告会は第 1 年次と第 2 年次の設置校の教師、住民、保健指導員に参加を呼びかけ、1 校を除き 29 校から 59 人が参加し、当団体本部スタッフは日本からオンラインで参加した（別紙 写真 13）。グワ郡の行政機関からは、郡長、保健衛生部長、教育部長が参加し、この活動の意義を述べるとともに、今後も LCA システムを活用して防災と保健衛生意識の向上に努めることを呼びかけた。 参加者からは授業や防災放送などで LCA システムを大いに活用しているとの報告があった。
（3）達成された成果	本事業の実施による成果は以下の通りである。 （ア）成果を示す具体例 LCA システムの設置作業などの現地での作業は、行政機関や住民、教師の支援を受けたが、非常に協力的でありまた歓迎された。これは、この事業がこの地域の生活に役立つものであると感じているためと思われる。以下は成果を示す具体例である。 （a）コロナ感染予防で活用 事業を行っている期間はコロナ禍に見舞われている期間でもあった。LCA システムはそのような中で設置されたため、コロナ感染防止の教育や呼びかけに大いに活用された。 （b）更なる設置の要望 活動報告会で、保健指導員から LCA システムの更なる設置の要望があった。この指導員の担当地域は非常に僻地であるため医療サービスを受けることが困難な地域なので、病気を予防するために LCA システムを利用したいとのことであった。これは本システムがニーズにあった事業であることを示している。 （c）住民による修理費の確保 Makyae Ngu 村に設置した LCA システムのテレビにボールが当たり画面が割れる事故が起きた。修理をして使えるようになったが修理費の大部分は住民から集めた金額（約 5 万円）で賄われた。これは、LCA システムが住民や生徒にとって必要なものとなっていることの表れである。また、ワークショップ等で自立的な維持・管理を訴えてきたことが浸透している事例でもある。 （d）日本との友好関係への期待 ミャンマーの中でも不便なところであるグワ郡の生徒は、LCA シ

	ステムのような現代的な機器で授業を受けられることに非常に喜んで いたとともに、日本からの支援に感謝していた。このような光景を見 て、事業地の生徒から将来日本との友好関係に貢献する人物が現れる ことが期待できると実感した。 (イ) 裨益者数 裨益者はＬＣＡシステムを設置した村落の住民と考えられるので、 第１年次：約１２，６００人 第２年次：約１５，５００人 である。 行政機関を通じて本事業の効果も考えられるので、間接的な裨益者 数はグワ郡の人口の６１，０００人となる。 (ウ) 「成果を測る指標」による測定結果 【期待される成果１】 ＬＣＡシステムおよびハザードマップにより、生徒や住民が防災や保 健衛生に関する情報に接することができるようになる。 指標１：ＬＣＡシステム利用説明会において利用法の理解度が７０％ 以上となる。 〔測定結果〕：８５％ 指標２：ハザードマップ設置後の説明で利用法の理解度が７０％以上 となる。 〔測定結果〕：８０％ 指標３：生徒の保健衛生授業の理解度が７０％以上となる 〔測定結果〕：８０％ 指標４：生徒の７０％以上が他の地域の生徒に比べ防災意識および保 健衛生意識が高いと思う。 〔測定結果〕：８５％ 指標５：住民の７０％以上が他の地域の生徒に比べ防災意識および保 健衛生意識が高いと思う。 〔測定結果〕：７５％ 【期待される成果２】 学校での学習や行事などへの父兄の関心が高まり、家庭で子供の学習 のことを話題にする雰囲気醸成される。子供もＬＣＡシステムを利用 した学習に高い関心を持つようになる。子供はＬＣＡシステムを利用 した学習で得た知識を家庭で話題にし、子供を媒体として住民の防 災意識、保健衛生意識が高まる。 指標６：ＬＣＡシステム委員会のメンバーの７０％以上が以前に比較 し父兄の学校への関心が高まったと認識する。 〔測定結果〕：８０％ 指標７：ＬＣＡシステムを使った授業に生徒の７０％以上の生徒が関 心を持ち満足する。 〔測定結果〕：９５％ 指標８：生徒の７０％以上が学校で得た防災および保健衛生に関する 知識を家族に話し、避難方法や病気を防ぐ方法などについて話し合っ たことがある。 〔測定結果〕：８０％
--	---

(4) 持続発展性	本事業により達成された成果が継続して維持されるように、以下の施策を行う。 (ア) サポートの継続 設置した学校よりシステムに関する問い合わせがあれば対応しているが、これを事業終了後も継続し、本事業による裨益が継続されるようにするとともに更に発展させていく。 (イ) モニタリング 定期的にモニタリングを行い、機器の保守状況や使用状況をチェックする。必要に応じて修理や活用の指導を行う。 (ウ) 行政機関への協力 本事業の持続発展には行政機関による学校や村落への支援も不可欠である。グワ郡の郡長、保健衛生部長、教育部長は、キックオフ会議、活動報告会にも参加しＬＣＡシステムの有効性をよく認識し活用したいと考えているので、当団体としても今後も行政機関からの問い合わせなどに積極的に対応して行政機関が学校や村落を支援できるようにする。
------------------	--